

特色ある学校づくりを目指して

～ 道立中等教育学校基本構想説明会 ～

7月22日(金)、市民会館で『中等教育学校を支援する市民会議』が開かれました。

中等教育学校は、中高一貫教育を6年間一体的に行う道内初の学校として、北海道教育委員会が登別高校敷地内で建設を進めており、平成19年4月の開校を予定しています。

この日は、北海道教育委員会の担当者が出席し、教育内容などの基本方針を説明。教育内容では、6年間で3期に分けて教育課程を編成し、中国語やハングルなどの授業を行うほか、海外への研修旅行、語学体験研修、英語以外の教科を英語で指導するイメージプログラムなどの導入など、国際理解教育や外国語教育の重視を特色の一つに位置付け、『高い知性』『豊かな人間性』『健康な心身』『郷土愛と国際性』を柱に、北海道の将来を担う人材の育成を目指しています。

定員は、各学年2学級の計12学級で480人、定員の2割の生徒は、胆振管内以外から受け入れる予定です。

生徒は、平成19年度から21年度までは1年生(前期課程)と4年生(後期課程)を同時に募集し、平成22年度以降は1年生のみの募集とし、入学者の決定は、前期課程が面接や作文、実技などの結果を総合的に判断し、後期課程は道立高校入学者選抜実施要項に基づき行われる予定です。



建設中の道立中等教育学校

サッカーで友情を深めたよ

～ 平成17年度登別・白石姉妹都市少年スポーツ交流事業 ～



8月6日(土)・7日(日)の2日間、川上公園で『平成17年度登別・白石姉妹都市少年スポーツ交流事業』(登別・白石姉妹都市交流推進協議会主催)が行われました。

同交流事業は、宮城県白石市との姉妹都市提携を契機に、昭和62年度から会場を交互に、毎年開催されているもので、今年は、両市の小学生がサッカーを通じて友情を深めました。

サッカー少年たちは、芝生のピッチを目一杯駆け回り、ボールを追いかけながら勝ち負けに関係なく試合を満喫。応援に駆けつけた保護者からも、両チームに大きな声援が送られていました。

熱気溢れる戦い

～ 平成17年度北海道中学校体育大会・第36回北海道中学校バドミントン大会 ～

7月29日(金)から31日(日)までの3日間、総合体育館で『平成17年度北海道中学校体育大会・第36回北海道中学校バドミントン大会』が開かれ、全道各地の予選を突破した391人が熱戦を繰り広げました。

同大会は、平成3年以来14年ぶりに登別市で開催され、開会式では、緑陽中学校3年生の新野哲也君と鷺別中学校3年生の森田友里香さんが「シャトルがコートに落ちるまで追い続け、全力で戦い抜きます」と力強く宣誓しました。

コート上は、全国大会への切符を目指し、白熱したラリーの応酬や迫力あるスマッシュなどが展開され、熱気で溢れていました。

